

北海道下川商業高等学校 令和7年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- 1 基礎学力の定着を図り、自ら学ぶ意欲を育てる。
- 2 自らを律する心を育て、礼節を重んずる生活習慣の確立を図る。
- 3 自らを鍛え、健康で豊かな思いやりのある社会人の資質を育てる。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は楽しい」「入学して良かった」「目標を持って学校生活を送っている」という本質的な質問項目に対する肯定的な回答が多かった。 ・「下川商通信」を読んでいるとの回答について、低調傾向が続いている。 ・学校ホームページについて、閲覧状況が非常に悪い。 ・理科教員の未配置に対する不満の声があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外に向けた情報発信について低評価。 ・学習環境の維持・整理について低評価。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「入学して良かった」「入学させて良かった」と言われる学校を目指すべく、わかる授業の実践、手厚い教育相談・生徒指導体制の構築、充実した課外活動など、学校運営の基本となる諸活動について更なる改善と充実を図る。 ・「校内環境の整備」について、速やかにその改善に向けて組織的に対策していく。 ・「下川商通信」の内容充実と配布先の拡大、noteの情報発信力向上など、校外への情報発信を更に拡充し、本校の魅力を最大限発信できるよう努めていく。 	
教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「資格取得指導」について、例年にも増して高評価となった。 ・全体的には評価の下降傾向見て取れる。 ・校外での学習機会等については高評価。 ・家庭学習について、その定着率が低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部授業における指導方法や規律指導について、改善を求める声が出されている。 ・生徒の学力向上に対する評価が低調。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」を実践する機会を校内外共に拡充し、真の学力向上に向けた具体的な取組を行う。 ・「指導と評価の一体化」「ICT利活用」など、時代に即した授業技術を積極的に研修し、教科指導力向上や個別学習環境の整備、家庭学習習慣の定着に努める。 ・教員の指導力向上に向け、校内研修の充実や公開授業の積極的活用など、教員の資質向上に努める。 	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、今年度も高評価となっており、本校が実践する商業教育が生徒に浸透していることが読み取れる。 ・「生徒指導」や「生徒理解」に関する質問項目が低評価となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒指導体制に対して、一部保護者から不安視する意見が見られた。 ・「どの先生も同じ方針で生徒指導ができている」に対する評価が低調。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶・礼法」指導は、商業科として最も力点を置くべき指導項目であることから、今後もさらに指導を徹底する。 ・「生徒指導」については、まずは基本的なマナーや日常における細やかな指導の徹底など、もう一度基本に立ち返って体制構築を図る。また、学校としての指導目標や項目について、改めて教員全体に周知徹底する。 ・「生徒理解」については、教育の根本ともいえる活動であることから、その手法や心がけについて研修等を通じて全体のスキル向上を図る。 ・生徒指導はチーム戦であることを改めて意識させるため、特に若年層の教員に対する指導・助言を徹底する。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に対する評価は今年度も堅調である。 ・進路指導に係る各種活動についても概ね高評価であり、生徒自身が指導効果を実感していることが判る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の充実が「進路決定率18年連続100%達成」へと繋がっており、次年度以降も生徒の進路希望実現に向けた努力を期待する。 ・保護者との連携に関する評価が低調であった。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「求人票管理システム」のより効果的な活用と、保護者への周知を図り、情報提供に対する不満を解消する。 ・分掌と学年の強力な連携による、組織的な進路指導体制を構築する。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事全般にわたり、生徒・保護者の満足度は非常に高く、本校学校行事の充実が結果に現れる形となった。 ・「環境美化」については、特に教職員の評価が極端に低く出ており、問題意識の高さが窺われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室の雰囲気暗いのではとの意見があった。 ・「人の生き方について考えさせたり、豊かな心を育てている」について、特にCS委員の評価が低調であった。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事については、今後も生徒会等による主体的な計画立案と実行を期待する。 ・環境美化については、「率先垂範」を念頭に教職員自らが周囲や保安担当箇所の整理整頓を実践するよう、更に指導を徹底する。 ・職員室の雰囲気については、教頭のリーダーシップを働かせることでより良いものに改善していく。 ・学校生活のあらゆる場面において「人間としての在り方や生き方」を問う場面を設けるよう全体に図ると共に、道徳教育の充実を体制的に進めていく。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会 PTA役員会 学校職員へ公表 ・学校ホームページへの掲載 	